

僕の脳裏から離れない

一月十八日 土曜日

僕の脳裏から離れない

霧が深い。

紅茶を一杯飲み家を出た。

中書島で急行に乗ったとたん、すぐ坐れた。

いつもなら、丹波橋からだ。

三条につくまで、ただ、じっと、

連結車両で、無人の運転席の

圧力計、速度計などを、じっと  
見ていた。それは、一種の好奇心、  
三条駅に着くまで、どの様な速度の変化が  
起きるか、また、最高はいかほどだろうか、  
などと思う好奇心によるものである。

それに話す事もなく、と言って、

勉強もする気になれず、  
暇だったので、なおさらであった。桃山を通過する時は時速六十キロ、  
そして、速度計の針がゼロになった時、  
電車は、ガタンと 止まった。

それで、右に振り返り、

窓の外を見ると、

あれ不思議、プラットフォームに立つ人が  
左から右へ流れてゆく。